

「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ第25号

2019年7月



シロスジカミキリ (カミキリムシ科)

目次

1. 6月活動報告 2～3
2. 7月の活動について 4～5
3. ムシプロだより 6～9
4. 自然の愉しみ方 (梅雨・夏) 10
5. 事務局より 11
- 今月の表紙 11

1. 6月8日（土）、9日（日）の活動報告

2019年第一回活動を6月8日（土）9日（日）に「行いました。

活動には、13名（4家族9名、スタッフ4名）が参加し、バタフライガーデンの雑草取り、雑木林の下草がり、モリアオガエルの観察を行いました。

ハードスケジュールでしたが、モリアオガエルの大歓迎と雑木林の地主さんからゆで卵の差し入れをいただいて大変充実した活動となりました。



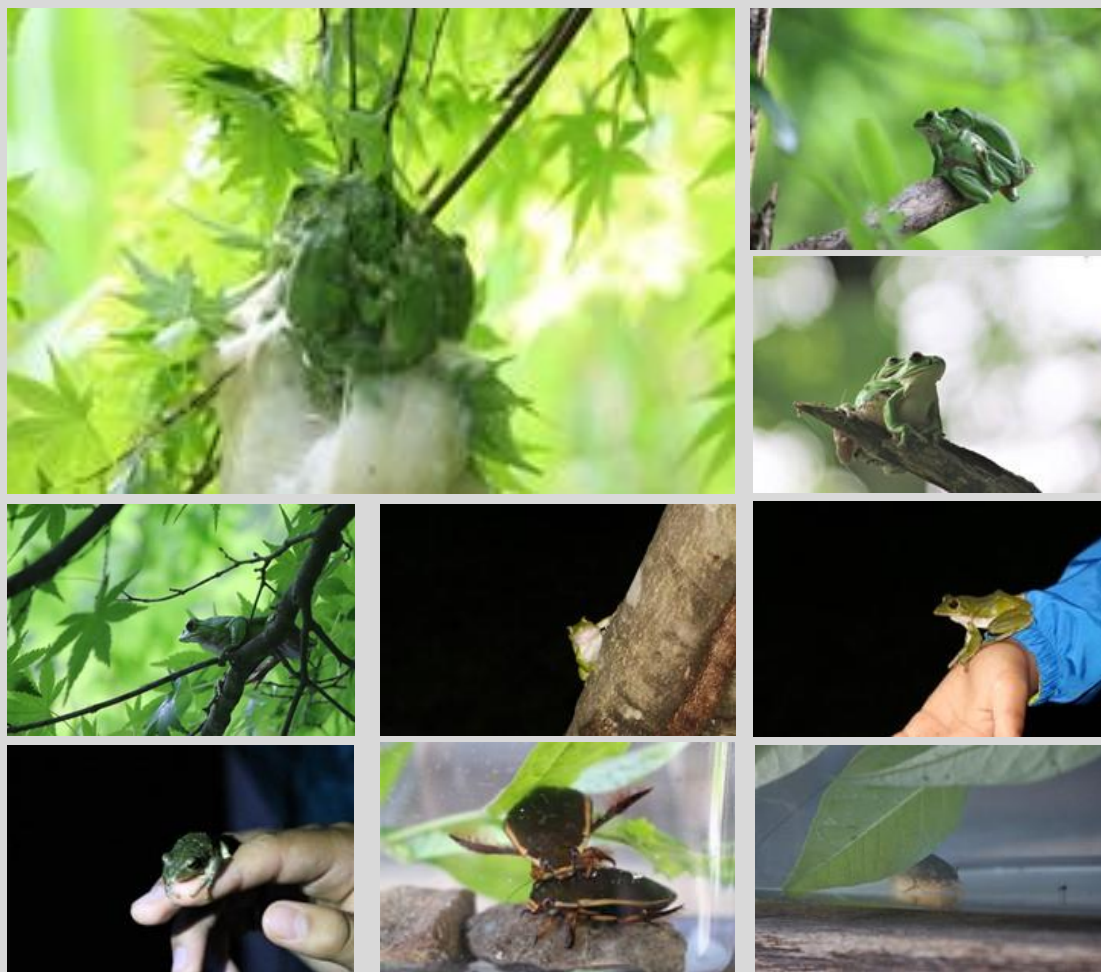
■ モリアオガエルの観察

7日に梅雨入りして観察には絶好のコンディションとなり、生息地に着くと「産卵シーン」「カップル」「木の上でメスを待つオス」をすぐに見つけることが出来ました。2011年から続けていますが、下見の昼間からこれだけの数のモリアオガエルを観察できたのは初めてです。夜になるとモリアオガエルのコロコロという鳴き声の他にシュレーゲルアオガエル、ツチガエルの鳴き声も加わり、カエルの大合唱になりました。

<観察した生き物>

モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、ツチガエル、
トウキョウダルマガエル、カジカガエル、ゲンゴロウ、ガムシ、コオイムシ、ホトケドジョウ、ゲンジボタル

モリアオガエル観察の様子



夜の観察・採集では、慣れた場所でも明るいうちに下見をして生息環境、観察ポイント、危険箇所等を確認しておきましょう。

■ 活動の合間で撮影した写真

活動の合間でも自然と親しみ、たくさんの楽しい出来事がありました。



8日、9日の画像は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/Ddf7rsVpnYa>

パスワード：20190608

2. 7月の活動について

今年は、7月13日(土)～7月14日(日)と7月14日(日)～7月15日(月)の2回行います。活動内容は同じです。

■ タイムスケジュール

1日目

12:50 受付開始

13:10 開会式、オリエンテーション

13:30 くまの木周辺散策、花壇の整備(くまの木)

16:30 民宿「庄屋」へ移動、雑木林の観察

17:00 夕食、入浴

19:30 雑木林の観察、光に集まるムシ観察

21:30 まとめ

2日目

4:30 4時起床、ヒグラシの鳴き声リレー鑑賞(希望者のみ)

7:30 朝食

9:10 雑木林の観察

11:00 まとめ、解散



※タイムスケジュールは、天候や作業の進捗状況、参加者の体調などにより変更となる場合があります。

■ 雑木林の生き物観察

6月の活動で下草刈りを行った雑木林でムシの観察を行います。

観察は、民宿「庄屋」に宿泊して早朝、昼、夜と時間を変えて行います。

夜の観察では、ライトトラップを設置して光るに集まるムシも観察します。

これまで、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、シロスジカミキリ、カナブン、アカシジミ、コムラサキを観察しています。

また、二日目の朝早く起きて「ヒグラシの鳴き声」リレーを聞きましょう。

詳しくは、次ページの「ヒグラシは二度鳴く」を見て下さい。

参考:2018年の活動の様子



民宿「庄屋」



樹液に集まるムシ観察



ヒグラシの鳴き声リレー

ヒグラシの鳴き声
が、遠くの山から
聞こえ始め、左の
木に到達する

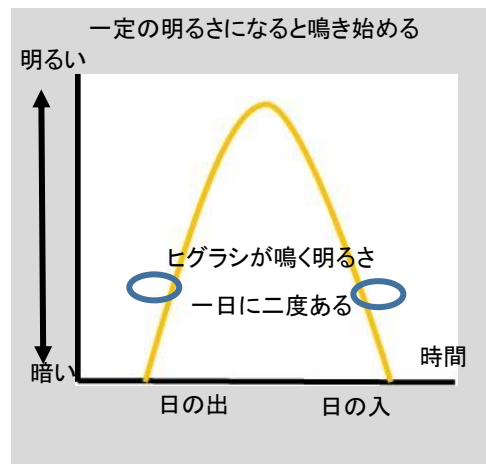
● ムシたちの夏（ヒグラシは、二度鳴く）

夕暮れに聞くヒグラシの鳴き声「カナカナカナカナ・・・」は、一日の終わりを告げるものとして、あるいは盛りが過ぎ衰えていく寂しいものとして古くから日本人に親しまれてきた。

朝からムシ探しをしていた私もこの鳴き声が聞こえると、家に帰る支度をしていました。私には、「暗くなる前に帰りなさい」と聞こえていた。

ある日、カブトムシを探るために日の出前から出かけていると、あの「カナカナカナカナ・・・」が遠くから聞こえ始め、やがてその声は目の前を過ぎていった。この時、ヒグラシが朝も鳴くことを知った。また朝の鳴き声は、夕方に聞くものと違ってとても力強く感じた。

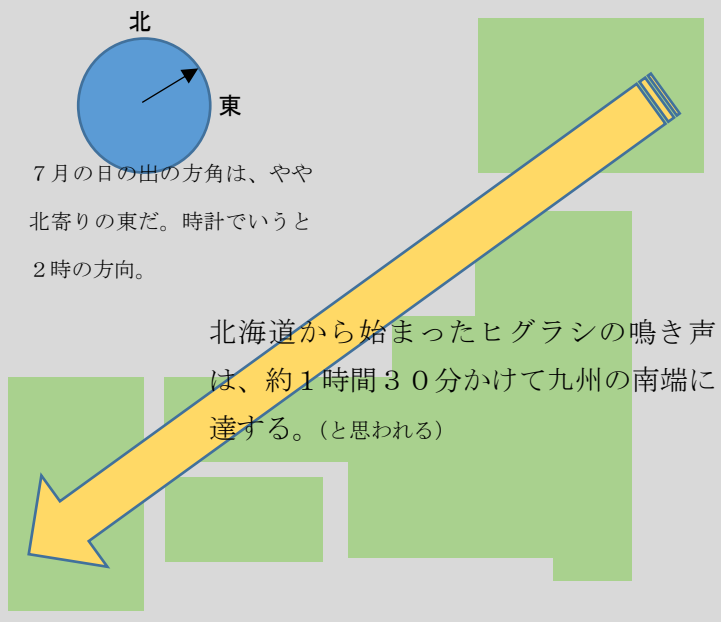
家に帰って図鑑を開くとヒグラシは、一定の明るさになると鳴き始めること、北海道から九州まで分布していることが、書いてあった。（※この当時、沖縄は、アメリカに占領されてたのです）



私の妄想？：日本列島は、細長い。東から西まで日の出の時間の差は、1時間30分近くになる。この日の出にあわせてヒグラシの鳴き声が、日本列島を東から西へ移動する。毎朝、ヒグラシの鳴き声が、東から西へ移動していく壮大なドラマが演じられている。

<7月15日の日の出の時間>

場所	日の出の時間
1 札幌	4時08分
2 仙台	4時25分
3 宇都宮	4時33分
4 東京	4時36分
5 静岡	4時43分
6 名古屋	4時49分
7 大阪	4時56分
8 高知	5時06分
9 広島	5時09分
10 福岡	5時19分
11 鹿児島	5時23分



3. ムシプロだより

小笠原 隆（カミキリムシ博士）

カミキリムシとの出会い旅（1）

2005年7月に新潟県の妙高高原で撮影した一枚です。

中央はピンクがかったノイバラの花に集まる「ニンフホソハナカミキリ」で、♂♀共にアンテナの一部が白くなっていてよく目立ちます。右奥には「オオヒメハナカミキリ」の♂♀も見えています。

牧場の周辺に咲いていたこのノイバラの花には、ここに挙げたカミキリムシだけでなく、実に多種多様な昆虫が集まっていました。



アオカミキリ (26mm) とミドリカミキリ (20mm) です。

同じような色ですが、ミドリカミキリは光線の当たり具合により青く光ります。

アオカミキリの腹部は四角に近く、ミドリカミキリは細長い三角形に見えます。



アオカミキリ



ミドリカミキリ

クシヒゲシマメイガです。

前足を思い切り前方に伸ばして独特な形で停まります。上から見ても前足を伸ばしているのが判ります。お尻を上突き上げるようにして停まることもあります。

メイガの仲間は変わった格好で停まる種が多いです。



モモチョッキリです。

ハナモモの実に口吻を差し込み一生懸命穴を開けているところに出逢いました。

別の実ではお尻を穴にいれているので産卵をしていると思われます。



アブラゼミの楽園？

今年も暑い夏がやってきました。夏を待っているムシはたくさんいますが、特にセミは長い幼虫時代を地中で過ごし成虫期間が短いので、「夏だ、夏だー！」と一番喜んでるように感じます。

関東地方で一番ありふれたセミはアブラゼミですが、私が小学校低学年で蝉採りを始めたばかりの頃は手強い相手でした。ニイニイゼミや朝方のヒグラシと比べ警戒心の強いアブラゼミはなかなか捕まえられなかったのです。長い捕虫網を使い、初めて捕まえることができた瞬間を今でも鮮明に思い出します。

昨年長野県のキャンプ場に行ったときのことで。耳鳴りがするほどアブラゼミが鳴いていたのです。カラマツ林の高い梢で無数と言いたくなるほどのアブラゼミが競いあって鳴き、それらは共鳴し不思議な空間を作っていました。カラマツの樹皮には抜け殻がいくつも付いていました。地面には成虫の死骸とたくさんの抜け殻が散らばっていました。よく見るとその地面にはこれまたたくさんの幼虫が出てきた穴がありました。そこはアブラゼミの楽園であると同時にアブラゼミ大好き人間の楽園でもありました。



カラマツの木には、
たくさんの抜け殻が
付いていた。さらに
幼虫が地表に出てき
た穴もかなり密集し
ていた

羽化したてのアブラゼミは緑色
で怪しい美しさを持つ



アブラゼミ成虫も一見地味だが
良く見ると美しい



「ヤママユ」の飼育記②

千葉市若葉区の雑木林で採集したヤママユの幼虫は、順調に育っています。

6月16日現在、二度脱皮して体長約80ミリに達しています。毎日、クヌギの枝を補充しています。



● 5月22日:脱皮



● 6月 2日:脱皮



- 成長に従い、飼育ケースの大きさを変えています。(中→大→大を重ねたもの)
- フンを大量にするので、三日に一回掃除します。

● 6月 16日:体長約80ミリ



4. 自然の楽しみ方（梅雨・夏）

● ムシたちの夏（樹液をめぐる戦い③）

夏になるとクヌギ、コナラ、ヤナギに樹液を提供する昆虫酒場が開店する。昆虫酒場には樹液を求めてカブトムシ、クワガタムシ、スズメバチ、カナブン、ハナムグリ、オオムラサキ、キタテハ、ルリタテハなどタテハチョウの仲間などが集まる。樹液が良く出ている場所は、限られているため必ず争いがおきる。戦いの様子を愉しんで番付（横綱、大関、関脇、小結、前頭）を付けてみよう。（写真・文 西野 孝法）

昆虫酒場の様子(千葉県千葉市)※3枚とも同じ場所です。



小さな昆虫酒場を大きなカブトムシのオスが独占していた。他のムシたちは見当たらない。

カブトムシ「この場所は、誰にも譲らない！お腹いっぱいになるまで飲むぞ！」



カブトムシのオスがいなくなると、カナブン、オオムラサキ(メス)が、集まってきた。

カナブン「どけー！」「オレが先だ！」

オオムラサキ「ジャマよ！どきなさい！翅のパンチを浴びせるわよ」



ブーという羽音とともにオオスズメバチが、突然現れた。カナブン、オオムラサキはパッと場所を空けた。

オオスズメバチ「場所を空けないと噛みつくよ！」

オオムラサキ、カナブン「仕方ない、オオスズメバチがいなくなるまで待つことにしよう」

問題: 3枚の写真の様子から、強い順にムシを並べてみよう！

5. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2019年7月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：harukan@ac.auone-net.jp

今月の表紙



体長40～60ミリある大型のカミキリムシである。体には、淡い黄色の模様があるが、死ぬと白くなることから、「シロスジカミキリという名は、死んだ個体を見たのではないか？」と図鑑などを見ると必ずと言っていいほど書かれている。

6月から8月にかけて出現しクヌギ、クリ、ヤナギなどの生きた木の皮をかじり産卵する。このかじた場所（産卵痕）から樹液が出て「樹液酒場」になる。雑木林で樹液に集まるムシを求める私たちにとってはとても大事な存在だ。

幼虫は、木の中に入って内部を食害する。

こんな幼虫にも「ウマノオバチ」という天敵がいる。

自然とは「なんて、いろんな生き物が関わりあっているのだろう。」と、つくづく思う。



(写真/文 西野 孝法)